

MIZUMAKU OGAKI 2015

Starting Point — Up-and-coming artists of our Ogaki —

ミズマク
おおがき
2015

Starting Point — 大垣の新進美術家たち —

開催概要

ミズマクおおがき 2015

Starting Point — 大垣の新進美術家たち —

2015年11月21日（土）— 12月20日（日）

大垣市スイトピアセンター アートギャラリー

主催：大垣市・大垣市教育委員会

運営：公益財団法人 大垣市文化事業団

協力：極小美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

後援：大垣市文化連盟

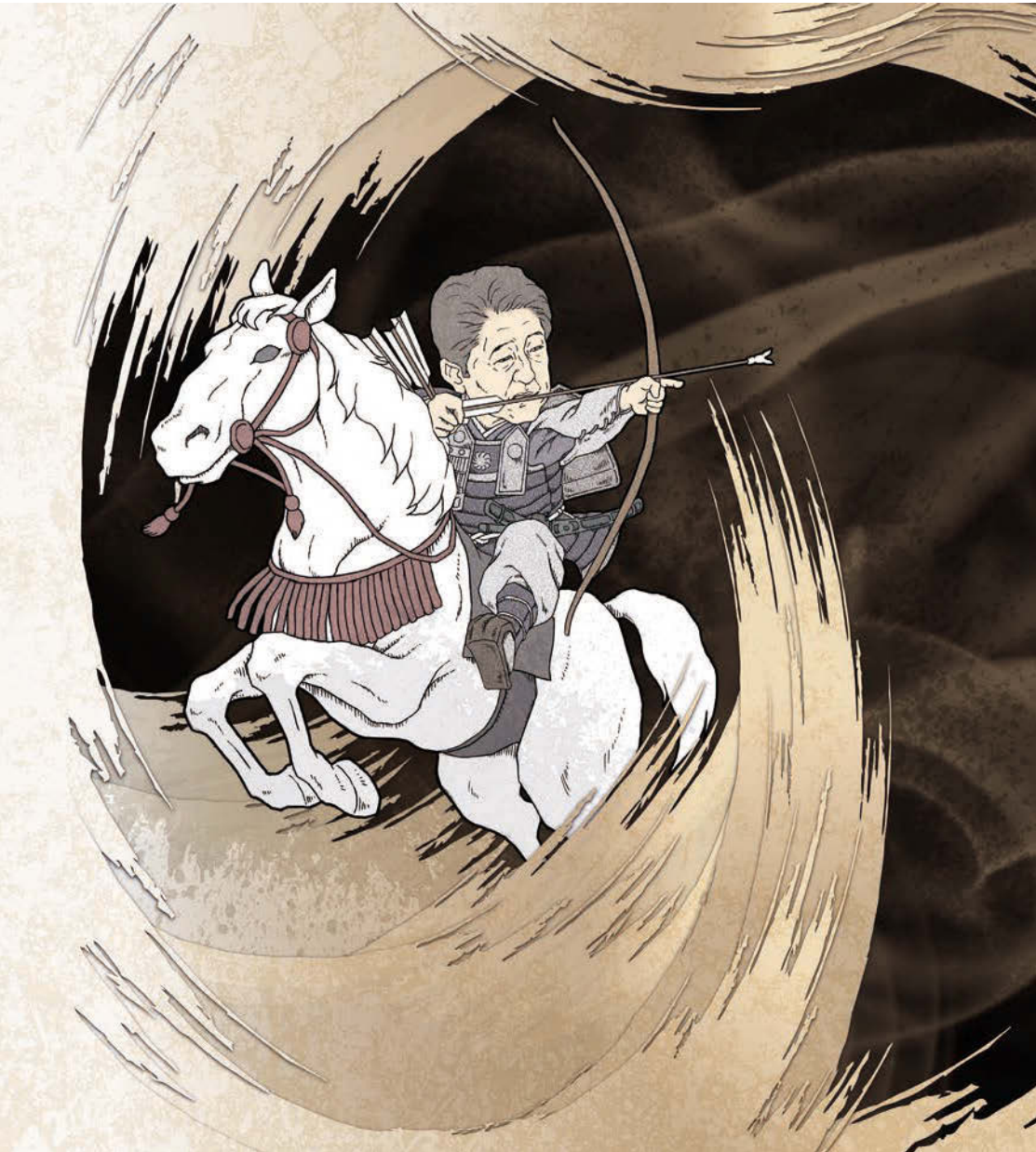
文教都市として知られる水都大垣では、学問と共に、芸術への取り組みが奨励されてきました。数多くの先人たちに続き、今また多くの若い世代が、現代における美術と向き合い、新たな時代を開こうとしています。本展は、こうした時代に向き合う若い力のなかから、大垣地域にゆかりある若手アーティストの紹介を通して、水をまき大地を潤すように、アートで心を潤す、新たな試みです。

出発点（Starting point）となる今回は、大垣を人生の原点（出身）とする5人の美術家を取り上げます。彼らは絵画・グラフィックデザイン・造形など、それぞれ異なるジャンルの表現者ですが、いずれも色彩表現において、単色の力を活かしつつ、見るものを引きつける作品を生み出しています。新たな表現を切り開く若き美術家たちの作品を通して、美術の魅力を再発見する機会とするとともに、大垣の地より新たな美術文化を発信していきます。

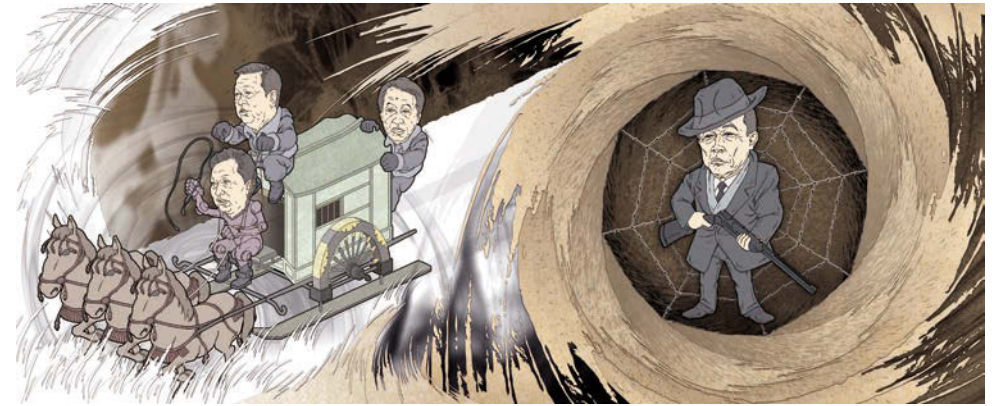
ミズマク…水撒く。水巻く。水都大垣で、身近に親しむ水（＝アート）をまき潤す。水が渦巻くようにアート同士が刺激し合い、魅力を増す。

2015年11月

大垣市・大垣市教育委員会



〈総理大陣図 2015 「アベノミクス」〉 2015 年



〈総理大陣図 2015 「トロイカ体制と麻生包囲網」〉 2015 年



〈総理大陣図 2015 「八頭立ての馬車」〉 2015 年

COMMENT

【1】 美術家としての原点 (Starting Point)

高校時代は美術科で毎日、朝と放課後デッサンし、何枚もゼロから描き続けました。予備校生とは違って大学合格だけが目的ではない。少ない人生経験と浅い美術の知識で「いい作品」とは何かを考え、それを自分が生み出せるように「描く力」を向上させることに突き進んでいました。クラス全体で切磋琢磨するその雰囲気と密度は、大学や社会人になってから容易に得られる経験ではありません。自分の基礎はここで築かれたと言えます。

【2】 作品制作にあたって大切にしていること

新聞社のデザイン部の仕事では、「ニュース」を図解し、正しく効果的に伝えることを最も重視しています。絵がどれだけ上手に描けてもそれが伝達の妨げとなれば、いいグラフィックにはなりません。一方、作家としての制作においては、「自分が何を表現したいのか」と、そのための「表現力の追求」を主題としています。
*デザイナー、としての自分と*作家、としての自分。それぞれの作業と思考を極めることが自分の成長につながると思っています。



〈あなたの恐れることに立ち向かえ〉2012・2014年

COMMENT

【1】 美術家としての原点 (Starting Point)

高校に入学するまで油画も描いたことが無いし作ることが好きだけで美術についての知識もなかったのですが、初めて油画を教わった先生に「ダイヤモンドの原石」と言われたので嬉しかったのを覚えています。しかし、後に、私はただの炭石なのだと思いますのでした。

いつしか楽しんで描けなくなっていたある日、他大学の准教授に私の絵をお見せすると真っ先に「何が言いたい?これ何?」との一言、衝撃を受けました。お見せしたのは静物画でしたが私は何も答えられませんでした。そして、作品に込められた意志が無かったことに気がきます。また、母校の教授がいつも無言のうちに仰っ

ていたのはこのことなのだと分かり、教授からもっと教わるべきことが沢山あるのだと気付くのでした。

それから、自分がなぜ作品を作り、作品で何を見てほしいのか、何を言いたくて伝えたいのか、一番作品に必要なことをやっと思いついたのです。

【2】 作品制作にあたって大切にしていること

好きか嫌いかで題材を選ぶのではなく、題材の本質を探り出す過程を痕跡として丁寧に織り綴ることが、作品になるということ。

そのために、精一杯愛情を込めて作ることに。正直になれない自分自身に正直に向き合うこと。



〈愛の連鎖〉2013年



〈目に見えないもの〉2013年



〈蘇星 3/6〉2012年



〈invisible.all〉2013年



〈視覚世界〉2015年

COMMENT

【1】 美術家としての原点 (Starting Point)

表現したいものが何なのか分からず、自分の作品と向き合うことができずにいた。しかし学部の卒業制作を進めていく過程でいろんな人と会話をし、その中で出てきた要素を自分のなかで落とし込み、制作につなげていく。それが面白いと感じた。

【2】 作品制作にあたって大切にしていること

なるべく多くのものを見るようにしている。それは作品だけではなく、映画や舞台や人との何気ない会話など、どこで何かに出会えるか分からないから面白いし、刺激も受けて制作につなげることができる。



〈光景〉2015年



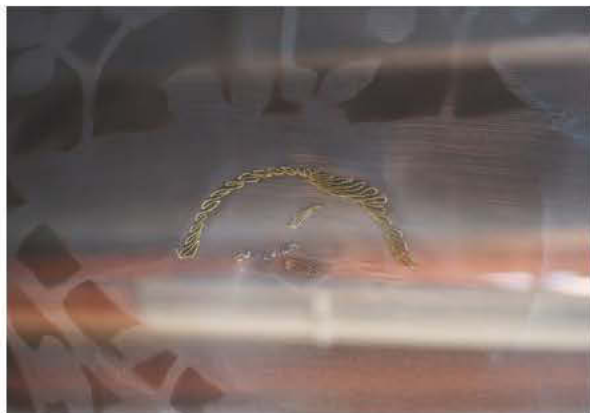
〈待つ〉2015年



〈White wall〉2015年



《scene》2015年



《scene》2015年



《近くて遠い向こう(部分)》2009年



《scene》2015年



《近くて遠い向こう》2009年

COMMENT

【1】 美術家としての原点 (Starting Point)

いちばん古い記憶をたどると…
園児のときに工作で「はな」をつくった。きれいな色紙、白くて丸い発泡スチロールにケーキの箱…。それらが“かたち”になっていくことにどきどきした。ものをつくることに最初にときめいた瞬間である。

【2】 作品制作にあたって大切にしていること

場や空間。そして身近なものに手を加えることにより、ものの方や価値観が変容したときの感覚。



〈VIEW-01〉 2011年



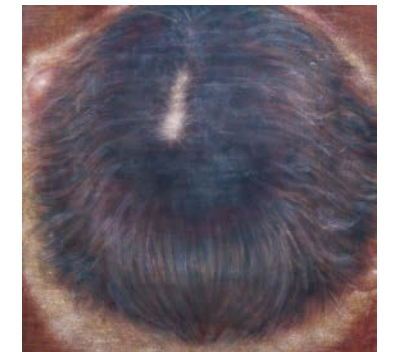
〈VIEW-06〉 2014年



〈VIEW-07〉 2014年



〈VIEW-02〉 2011年



〈VIEW-14〉 2014年

COMMENT

【1】 美術家としての原点 (Starting Point)

幼少期、書画骨董の収集を趣味とする祖父の影響からか、小さい頃から美術品を目にすることが多くありました。

物心がつく頃には自分も描く事・作る事がとても身近なものとなっていました。

その後、小さい頃に賞を取った絵を祖父が喜んで額に入れ飾ってくれたこと、それは今に至る原点であったと思います。

【2】 作品制作にあたって大切にしていること

見る人と作品の間で、やり取りが生まれる作品が描きたいと思っています。

作家略歴

佐々木克司 Katsuji SASAKI

- 1968年** 岐阜県大垣市生まれ。
- 1992年** 東京学芸大学教育学部美術科卒業。
朝日新聞東京本社編集局整理部デザイン室（現報道局デザイン部）入社。
- 2001年** 朝日新聞掲載「米のアフガン空爆」でSNDスペイン支部主催・マロフィエ賞のブロンズ賞受賞。（日本の日刊紙として初の受賞）
- 2009年** 極小美術館開設に伴い美術館スタッフとして参加。

時事ネタなどを交えた作品を制作しており、今回は、歴代の総理大臣を似顔絵イラスト風かつ、絵巻物風に描き、約13メートルにわたる大作を制作。

澤 恵美 Emi SAWA

- 1986年** 岐阜県大垣市生まれ。
- 2011年** 名古屋芸術大学卒業制作展ブライトン大学賞1等賞受賞。
- 2012年** 日本文化藝術奨学金奨学生として、ブライトン大学マスター・ファインアート科交換留学。（イギリス）
- 2013年** 名古屋芸術大学大学院美術研究科修了。

ガラスの割れる瞬間に命の輝きをみつけ、モノクロームの世界に描く。留学を機にインスタレーションにも表現の世界を広げている。

中野磨里 Mari NAKANO

- 1989年** 岐阜県大垣市生まれ。
- 2014年** 名古屋芸術大学美術学部美術学科洋画2コース卒業。
- 2015年** 名古屋芸術大学大学院美術研究科美術専攻在学中。

大学在学時よりグループ展や、アートプロジェクトに参加。ぎふのご祭でのライブパフォーマンスなども行う。洋画というジャンルに属しながらも、よりコンセプチュアル・アートに重点を置き、「パーソナルエリア」を主題として、絵画に限らず立体造形やインスタレーションまで、幅広い作品を展開する。

松野実香 Mika MATSUNO

- 1987年** 岐阜県大垣市生まれ。
- 2009年** 越後妻有トリエンナーレ2009・美大生展（新潟）出展。
- 2011年** 愛知県立芸術大学前期博士課程美術研究科彫刻領域修了。

美濃加茂市の美濃加茂文化の森で開催される屋外美術展「Woodland gallery」には、**2010年**より5回出品。
愛知県長久手市や半田市などでの街並を活かした展示を行う。様々な素材を用い、変幻自在に作品を展開する。

矢橋頌太郎 Shotaro YABASHI

- 1989年** 岐阜県大垣市生まれ。
- 2011年** 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。
- 2014年** 初個展「矢橋頌太郎展」（岐阜・極小美術館）。
- 2015年** 神通峡美術展（富山）優秀賞受賞。

人をモチーフにした心象風景などの絵画作品を制作。石膏を混ぜた絵の具による凹凸あるマットなマチエールに特徴を持つ。
近年は子どもを頭頂部より俯瞰しつつ、顔や周囲の状況さえ分からないほどに大きく描く「VIEW」シリーズを展開。

出品リスト

作家名	作品名	制作年	素材	サイズ（cm） （縦×横／高さ×幅×奥行）
佐々木克司	総理大陣図・五十五年体制崩壊後編 2015	2015	プリント	42.0 × 1,232.0
	総理大陣図 2008年版（連作）	2008	プリント	29.7 × 42.0（18組）
澤 恵美	目に見えないもの	2013	雨花石、柘、水	10.0 × 5.0（8組）
	あなたの恐れることに立ち向かえ	2012	インク、ノート、羽ペン	30.4 × 22.0
	愛は連鎖反応する	2014	木枠に銅	84.3 × 84.3 × 5.5
	あなたの恐れることに立ち向かえ	2014	木枠に銅	84.3 × 84.3 × 5.5
	あなたの恐れることに立ち向かえ	2012	キャンバスに銅	18.0 × 24.5
	扉を開け	2012	ミクストメディア	18.0 × 24.5
	愛の連鎖	2013	パネルに綿布、石膏地、黒鉛、鉛筆	91.0 × 116.7
	蘇星	2012	パネルに綿布、石膏地、黒鉛、鉛筆	116.7 × 91.0（6組）
	愛の芽吹き	2014	紙に鉛筆	21.0 × 29.7
	雪が降る音	2013	紙に鉛筆	21.0 × 29.7
中野磨里	光景	2015	パネル、アクリル	41.0 × 41.0
	待つ	2015	パネル、アクリル	41.0 × 41.0
	つれてあるく	2015	パネル、アクリル	53.0 × 65.2
	視覚世界	2015	MDF、カゼアルティ、アクリル	45.5 × 59.5
	untitled	2015	MDF、カゼアルティ、アクリル	26.0 × 27.5
	untitled	2015	MDF、カゼアルティ、アクリル	18.0 × 22.5
	untitled	2015	MDF、カゼアルティ、アクリル	27.5 × 26.0
	untitled	2015	MDF、カゼアルティ、アクリル	30.0 × 45.5
	触れる	2015	MDF、綿布にカゼアルティ、アクリル	91.0 × 150.0
	入り込む	2015	MDF、綿布にカゼアルティ、アクリル	91.0 × 150.0
まざる	2015	MDF、綿布にカゼアルティ、アクリル	45.5 × 91.0	
ドローイング	2015	紙	可変	
Portable space	2015	ミクストメディア	可変	
松野実香	近くて遠い向こう	2009	ストロー、鉄	244.0 × 180.0 × 190.0
	scene	2015	グラスオーガンジー、糸	可変
矢橋頌太郎	VIEW-01	2011	キャンバス、油彩、石膏、アクリル	130.3 × 193.9
	VIEW-02	2011	キャンバス、油彩、石膏、アクリル	130.3 × 193.9
	VIEW-06	2014	キャンバス、油彩、石膏、アクリル	65.2 × 53.0
	VIEW-14	2014	キャンバス、油彩、石膏、アクリル	145.5 × 145.5
	VIEW-15	2015	キャンバス、油彩、石膏、アクリル	162.0 × 130.0
	VIEW-16	2015	キャンバス、油彩、石膏、アクリル	145.5 × 112.0

SUITOPIA
CENTER



—
OGAKI CITY
CULTURAL
FOUNDATION

ミズマクおおがき 2015

Starting Point — 大垣の新進美術家たち —

—
編集：公益財団法人 大垣市文化事業団

発行：大垣市・大垣市教育委員会

デザイン：伊藤晶子

発行年：2015年11月
